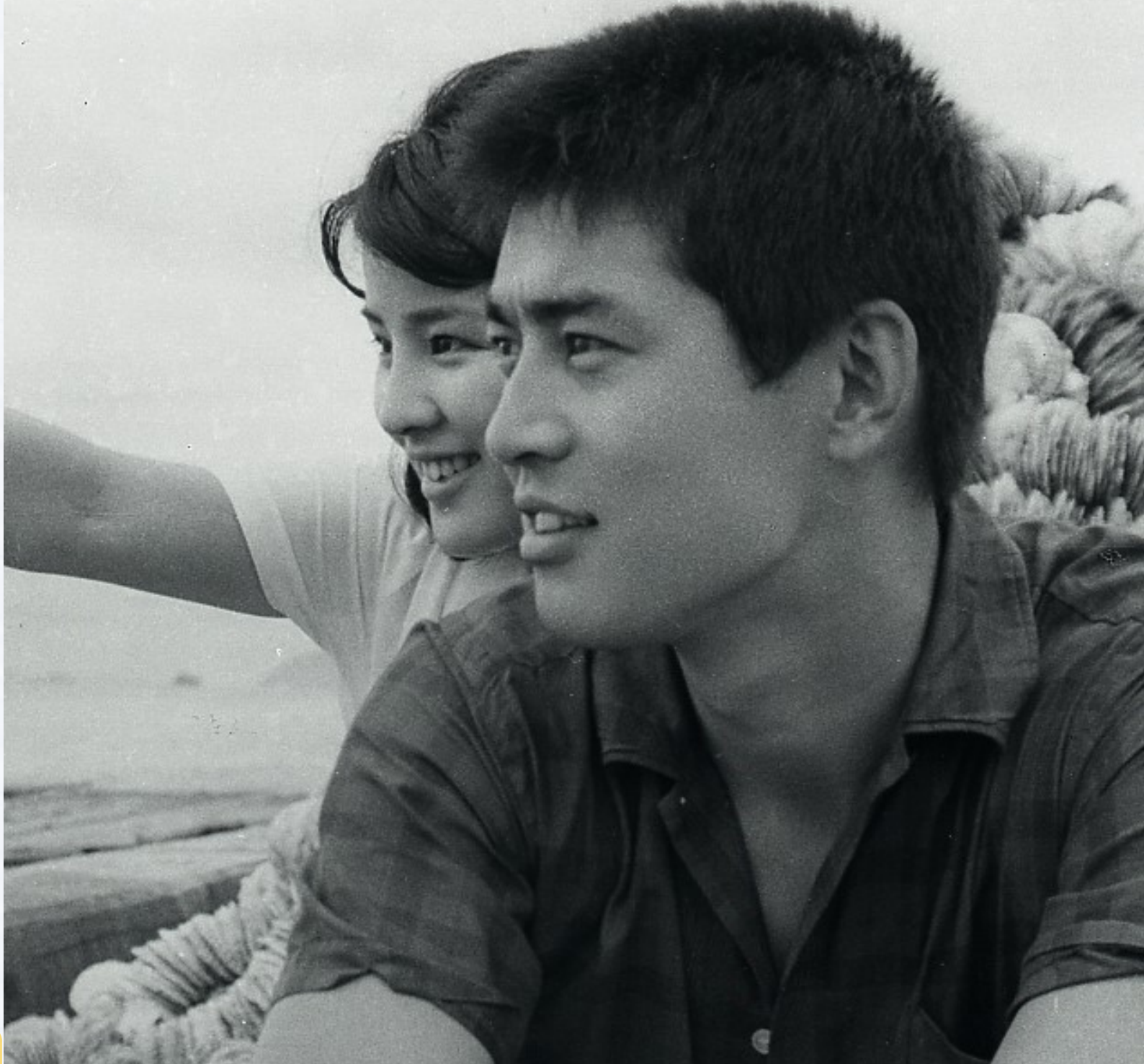


渡哲也 追悼上映会

© 日活



①	10:30開場 11:00上映『東京流れ者』(83分) 12:23終了 ⇒入替え・清掃	1 作品上映 1500円 (当日1800円※)
②	13:00開場 13:30上映『「無頼」より大幹部』(94分) 15:04終了 上映後⇒休憩(10分)⇒トークショー 15:15～ 特別トークショー 女優・松原智恵子さん 聞き手：立花珠樹さん(共同通信社・編集委員)	1 作品上映 +トーク付 2000円 (当日2300円※)

<席>自由席 / 新型コロナウイルス対策で上限250席 ※当日券は前売り予約分がなくなり次第終了

大田区民プラザ 大ホール

〒146-0092
東京都大田区下丸子3-1-3

<電車>

- ・東急多摩川線「下丸子駅」下車すぐ
- ・東急池上線千鳥町駅～徒歩7分



2020年11月15日(日) 文京シビックホール小ホール

③	10:30開場 11:00上映『愛と死の記録』(92分) 12:32終了 ⇒入替え・清掃	1 作品上映 1500円 (当日1800円※)
④	13:30開場 14:00上映『時雨の記』(117分) 16:10上映『誘拐』(109分) 18:10～ 特別トークショー 木村大作監督	2 作品上映 +トーク付 2500円 (当日2800円※)

<席>自由席 / 新型コロナウイルス対策で上限150席 ※当日券は前売り予約分がなくなり次第終了

文京シビックホール 小ホール

〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21

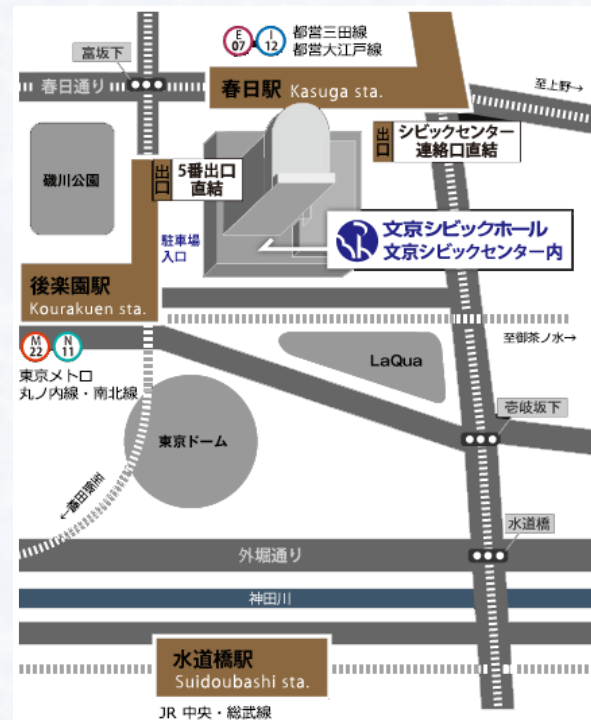
<電車>

- ・東京メトロ丸ノ内線/南北線後楽園駅5番出口直結
- ・都営地下鉄三田線/大江戸線春日駅直結
- ・JR中央線・総武線水道橋駅徒歩約10分

【ご予約方法】HPの予約フォーム、メール、電話の3通り

- ・HP予約フォーム <https://www.showabunka.org>
- ・メール showa.archives@gmail.com
- ・電話 090-7478-7507
(主催：昭和文庫アーカイブス 岡部・御手洗)

上記スケジュールより希望番号(①～④)
氏名・枚数・連絡先をお伝えください。



2020.10.24(土)

大田区民プラザ
トークゲスト

女優・松原智恵子さん



2020.11.15(日)

文京シビックホール
トークゲスト

木村大作監督



©2018「散り椿」製作委員会

2020年8月10日、肺炎により78歳で亡くなられた俳優の渡哲也さん。

「静かに送ってほしい」渡さんの強い希望から偲ぶ会やお別れ会は開催されません。そこには書籍や映像から知るだけではありますが「渡さんらしさ」を目一杯感じます。

しかし、ファンの一人として、スクリーンに映る渡さんの姿を目に焼き付けたい！思いっきり、心の中で追悼したい！渡さんを知らない世代にも新たに知ってもらいたい！という気持ちでいっぱいになり、今回の上映会を企画しました。

追悼上映会を開くことをご本人は望むだろうか――開催を決意をする前にしばらく悩みましたが、名優に対する何よりもの追悼のカタチは、やはり映画上映だと思いました。映画という文化の中で渡さんはこれからも生き続けます。

この上映会は故人を偲び悲しむものではなく、昭和に生まれ育った俳優・渡哲也さんの功績をたたえ開催します。ぜひこの機会に渡哲也さんという名優の魅力を改めて感じていただけますと幸いです。

主催者 昭和 cultura アーカイブス スタッフ一同

10月24日(土) 大田区民プラザ トークゲスト 15:15～ 女優 松原智恵子さん

昭和20年（1945年）1月6日生まれ。日活主催のコンテスト「ミス16歳コンテスト」に入賞し、昭和31年（1961年）に映画「夜の挑戦者」（野口博志監督）でデビュー。日活の専属女優として人気を誇り、その後、テレビ・映画など幅広い分野で活躍し続けている。渡哲也とは映画「東京流れ者」や「無頼」シリーズをはじめ10本以上の作品で共演。平成24年（2012年）の映画「トテチータ・チキチータ」（古勝敦監督）で第22回日本映画批評家大賞・助演女優賞を受賞。平成28年（2016年）公開の映画「ゆずの葉ゆれて」では、ソチ国際映画祭主演女優賞を受賞。翌年（2017年）には、毎日映画コンクール田中絹代賞を受賞。

聞き手 共同通信社 編集委員 立花珠樹さん

昭和24年（1949年）北九州市生まれ。一橋大卒。昭和49年（1974年）共同通信社に入社。1990年代から映画を担当。新藤兼人監督をはじめ、三國連太郎さん、岩下志麻さん、香川京子さん、若尾文子さん、吉永小百合さんら映画人へのロングインタビューや、名画の楽しい見方を紹介する映画コラムを執筆。著書には、「新藤兼人 私の十本」「岩下志麻という人生」（共同通信社）「若尾文子 “宿命の女” なければこそ」「凜たる人生 映画女優 香川京子」（ワイズ出版）、吉永小百合さんとの共著「私が愛した映画たち」（集英社新書）など。今年3月には「もう一度見たくなる100本の映画たち」（言視舎）を出版。現在、東京新聞夕刊にて「再発見！日本映画」を毎週連載。

11月15日(日) 文京シビックホール トークゲスト 18:10～ 木村大作 監督/カメラマン

昭和14年（1939年）生まれ。昭和33年（1958年）に東宝撮影部にカメラ助手として映画界入りし、黒澤明監督の組に配属。昭和48年に映画「野獣狩り」でカメラマンデビューし、代表作には「八甲田山」「復活の日」「駅 STATION」「火宅の人」「誘拐」「時雨の記」「鉄道員（ぽっぽや）」「ホテル」など。平成21年（2009年）には「劔岳 点の記」で初監督作品にして、第33回日本アカデミー賞最優秀監督賞、最優秀撮影賞など数々の賞を受賞、平成30年には監督としての3作目「散り椿」が第42回モントリオール世界映画祭にて審査員特別賞を受賞。平成15年（2003年）に紫綬褒章、平成22年（2010年）に旭日小綬章を受章され海外からも高い評価を得ている日本映画界を代表する監督・カメラマン。

渡哲也さん 昭和16年（1941年）12月28日～2020年8月10日）

昭和40年 日活映画「あばれ騎士道」でデビュー 昭和48年「くちなしの花」で全日本有線放送大賞金賞受賞

昭和51年 「やくざの墓場 くちなしの花」で毎日映画コンクール男優演技賞とブルーリボン主演男優賞受賞

© 日活



© 日活



© 日活



© セントラル・アーツ/フジテレビジョン



©1997 東宝

東京流れ者

10月24日(土) 午前11時～ 大田区民プラザ

〔監〕 鈴木清順〔原・脚〕 川内康範〔撮〕 峰重義〔音〕 鍋島創〔美〕 木村威夫
〔出〕 渡哲也/松原智恵子/二谷英明/川地民夫/郷鍬治/北竜二/ 江角英明/玉川伊佐男/浜川智子
吉田毅/木浦佑三/長弘/日野道夫

不死鳥の哲と異名をとるヤクザが、親分の罪をかぶって放浪する。庄内、佐世保と流れて東京に戻ってきた哲を待っていたものは……。前年デビューの渡を売り出すべく企画された歌謡アクション映画ながら、清順美学が炸裂したカルト作としても知られる。雪景色に点在する赤、二谷のジャンパーの緑、松原のバックの黄色など横溢する色彩の中、薄い水色→ベージュ→白と変わる哲のスーツの色、哲の虚無を象徴する枯木など、その後『無頼』シリーズなどで見せる渡の孤絶のヒーローのイメージを鮮やかに焼き付ける。特に、クライマックスの真っ白な空間に屹立する姿！（1966年/カラー/83分/DVD上映）

「無頼」より 大幹部

10月24日(土) 午後1時半～ 大田区民プラザ

〔監〕 舩田利雄〔原〕 藤田五郎〔脚〕 池上金男/久保田圭司〔撮〕 高村倉太郎
〔音〕 伊部晴美〔美〕 木村威夫〔出〕 渡哲也/松原智恵子/浜田光夫/水島道太郎/川地民夫
松尾嘉代/待田京介/青木義朗/三条泰子/北林早苗/高品格/藤竜也/深江章喜/青江三奈

三年の刑期を終えて出所した五郎はヤクザの世界に嫌気がさして堅気になろうとするが、組織の汚いやり口に耐えきれず死闘に向かう。舩田が「これはヤクザの世界を借りた青春映画だ」と語るように、社会階層の中で疎外される若者の孤独や怨嗟を投影した本作。それまでの日活ヒーローと異なり、泥沼から抜け出そうともがき苦しむ主人公像に渡の個性がピタリとはまり大ヒット、シリーズ化され全6作が連打された。渡自身も「役者でやっていけるかもしれない」と感じ始めた印象深い作品という。全作でヒロインをつとめた松原の純情可憐な魅力も忘れられない。（1967年/カラー/94分/DVD上映）

愛と死の記録

11月15日(日) 午前11時～ 文京シビック2階小ホール

〔監〕 蔵原惟繕〔原〕〔脚〕 大橋喜一/小林吉男〔撮〕 姫田真佐久〔音〕 黛敏郎〔美〕 大鶴泰弘
〔出〕 渡哲也/吉永小百合/戸川いづみ/滝沢修/佐野浅夫/垂水悟郎/浜川智子/中尾彬/三崎千恵子
日野道夫/鍋島はるな

レコード店で働く和江は印刷工の幸雄と出会い愛し合うが、両親を被爆で失った幸雄は白血病を発症する。結婚に反対する周囲に抗して懸命に看病する和江の願いも空しく……。実話に基づく悲恋の物語を渡と吉永の初共演、シャープなモノクロ映像で綴る名作。撮影前、蔵原に連れられ、原爆記念館を見学し衝撃を受けた渡と吉永は思いつめたように深夜まで宿でリハーサルを行い、入魂の演技を見せた。幸雄が亡くなるシーン撮影の数日前から、渡は満足の食事をとらず本当に頬をこけさせるほどだったという。渡は本作で第17回ブルーリボン賞新人賞に輝いた。（1966年/モノクロ/92分/DVD上映）

時雨の記

11月15日(日) 午後2時～ 文京シビック2階小ホール

〔監・脚〕 澤井信一郎〔原〕 中里恒子〔脚〕 伊藤亮二〔撮〕 木村大作〔音〕 久石譲〔美〕 桑名忠之
〔出〕 渡哲也/吉永小百合/佐藤友美/林隆三/原田龍二/天宮良/細川直美/裕木奈江/佐藤允/神山繁
前田吟/岩崎加根子/津村鷹史

妻子のある壬生は20年ぶりに出会った多江と恋におち、京都に終の住み処を建てて一緒に暮らしたいと話す。が、壬生の体には病魔が近づいていた。原作を氣にいつて長年暖めていた吉永が「壬生役は渡さんがいい」と提案し、日活時代以来の久々（29年ぶり！）の共演が実現。澤井は大人の純愛を「最後のロマンスク」とするために、原作から「昭和の終わり」に時代設定を変えたと語るが、昭和の映画に青春を刻んだ二人のスターはまさに適役。京都の紅葉、吉野の山々など、美しい風景を艶やかにとらえた木村のカメラも絶品。キネマ旬報ベストテン9位。（1998年/カラー/117分/35ミリフィルム上映/国立映画アーカイブ所蔵作品）



誘拐

11月15日(日) 午後4時10分～ 文京シビック2階小ホール

〔監〕 大河原孝夫〔脚〕 森下直〔撮〕 木村大作〔音〕 服部隆之〔美〕 部谷京子
〔出〕 渡哲也/永瀬正敏/酒井美紀/柄本明/石濱朗/新克利/西沢利明/磯部勉/岡野雄一郎/渡辺哲
西川忠志/上田耕一/江藤漢/山本清/奥村公延/梅垣義明/大森義之/伊藤淳史

大会社の常務が誘拐され、犯人は3億円の身代金を要求する。さらに、受け渡しの場面をテレビで生中継するという前代未聞の事態に警察も振り回される。はたして犯人の意図は？ 謎とサスペンス、あまりに意外な犯人が明らかになるラストまで一瞬も目が離せない！ 銀座のど真ん中で500人ものエキストラを使ったゲリラ撮影など、日本映画史上に類を見ないスケールの大作。身代わりで身代金を運ぶ刑事役の渡は「リアルな重さ」にこだわり、実際に3億円の重量（30kg！）のバッグを抱え街中を走り回る体当たりの演技を見せた。キネマ旬報ベストテン7位。（1997年/カラー/109分/35ミリフィルム上映）

解説：若井信二



©2018「散り椿」製作委員会